

所属・資格 英文学科・教授

申請者氏名 保坂 道雄

研究課題		言語変化と言語進化
報告の概要	研究目的 および 研究概要	ここ数年、言語進化の研究は新たな展開を見せている。特に、生物言語学という新領域が生まれたことにより、生物学、脳科学、人類学、考古学等との学際的研究が一段と進み、国内はもとより（日本進化学会等）、国際的にも様々な学会（EVOLANG等）が開催されている。しかしながら、言葉の変化を主要な対象としてきた歴史言語学とは、その研究姿勢に大きな隔たりが存在する。本研究では、言語変化もまた、言語進化の研究の一部として成立しうることを、動的な言語モデルを想定して、提案する。なお、平成30年度の具体的目標としては、言語の叙述構造(Predication Structure)の起源と進化について、英語のコピュラ文の歴史的発達等を通して、実証的に議論していく。特に、機能構造 PredP、AspP、VoiceP の創発について、日本語を含めた通言語的現象と英語を中心とした通時的変化を対象として研究を進める。
	研究の結果	本年度の研究では、英語のコピュラ文、進行構文、受動構文、完了構文の通時的発達をテーマとして取り上げ、その機能構造の発達に関して記述的及び理論的考察を行った。なお、その成果は、『英語学が語るもの』（くろしお出版）に収録された論文「変幻自在な BE 動詞の謎」として公表している。また、こうした機能構造の変化を言語進化の観点から捉え直す作業も同時に進めており、その成果は、新学術領域「共創言語進化」プロジェクトの各領域会議において発表し、『歴史言語学』（共著、朝倉書店）として公表している。
	研究の考察・反省	今後、上記の研究をより発展させるためには、提案した機能的構造の進化を証明するためのより多彩な議論が必要となる。特に、コピュラ文や各種助動詞構文を生み出す BE 動詞の文法化の過程は、これまでも多くの研究がなされており、より広範囲で緻密な分析が必要である。次年度は、ゴート語等のゲルマン語初期の言語資料も視野に入れて、BE 動詞がコピュラ化するプロセスをより詳細に検討する予定である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p><研究発表> 保坂道雄(2018)「言語進化と文法化：Predication Structure の創発をめぐって」, 新学術領域「共創言語進化」第1回 領域全体会議 ポスターセッション, ホテルシーパレスリゾート(豊橋), 2018年3月12日 保坂道雄(2018)「歴史言語学からの貢献：言語進化と言語変化の接点を求めて」, 新学術領域「共創言語進化」第2回 領域全体会議 ポスターセッション, 琵琶湖マリオットホテル, 2018年8月7日 保坂道雄(2019)「言語進化の三次元モデル」, 新学術領域「共創言語進化」第2回 領域全体会議 ポスターセッション, 沖縄科学技術大学院大学, 2019年2月18日</p>
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究会名 発表テーマ 年月日/場所	<p><研究成果物> Hosaka, Michio (2018) “Micro vs. Macro Evolution of Language,”Hawaii University International Conference on Arts, Humanities, Social Sciences & Education 2018 Proceedings. 保坂道雄 (2018) 『歴史言語学』（共著）（朝倉書店） 保坂道雄 (2018) 「変幻自在な BE 動詞の謎」、『英語学が語るもの』（米倉綽、中村芳久編）（くろしお出版）</p>